

第6次斜里町総合計画策定委員会 第2回部会長会議 記録

1. 日 時 平成25年2月7日(木) 20:20~22:00
2. 場 所 ゆめホール知床 会議室1
3. 出席者
 - ・委員：委員長ほか、計9名
 - ・事務局：北総務部長ほか、計6名
 - ・オブザーバー：計1名
 - ・アドバイザー：山崎教授
 - ・傍聴者：4名◇合 計：21名(別紙)
4. 結果要旨
 - 直前に行われた山崎先生の講演会について、意見交換を行った。
 - 第5次計画の成果検証シートを各部会で確認してほしい旨、事務局から各部会長に依頼した。また、その内容事項細部について、確認を行った。
 - 山崎先生の講演を受けて、今後、どのように第6次計画を構築していくかについて、協議を行った。○ 総合計画に係る町民アンケートの進め方についても意見交換を行った。
5. 結果詳細 下記のとおり

<結果詳細> (主な意見等を記載)

1. 開 会

- ・ 事務局(渡辺企画総務課長)の進行で開会した。

2. 委員長挨拶

- ・ 講演を聞いて総合計画に対するある程度の共通認識が持てたと思う。山崎先生にも引き続き会議にも参加して頂けるので、直接質問できる良い機会なので、不明点があれば聞いてみていただきたい。また、今後、部会協議が本格化してくるので、第6次計画の策定の方向性についても、協議願いたい。

3. 経過報告

- ・ 1/23 第 2 回全体会議の開催結果について、事務局から資料 1 により報告した。
- ・ 1/23 の全体会議後に開催された各部会について、各部会長から資料 2 により報告された。

4. 議 事

(1) 第 5 次斜里町総合計画の成果検証シートの確認依頼について

- ・ 第 5 次計画総括（案）を提示し、3 月末を目途に、各部会で担当分野の記載内容や評価点を確認をしていただきたい旨を依頼した。
- ・ この総括案を 6 月定例議会において報告する予定であることや、各部会での内容確認を受けて、評価や記載内容の修正をすることを補足した。
- ・ 総括案に関する質疑は次のとおり。

- 検証シートは、個人の意見ではなく部会として意見をまとめるものであるか。
→ 部会の意見としてまとめて頂きたい。
- この委員会は、第 5 次の検証が目的ではないと思っているので、委員会としての成果（といえるまでの厳密さをもって確認）にする必要はないという認識で良いか。
→ その通りである。但し、行政としては、第 6 次計画の町民策定委員会にチェックをしてもらったという位置づけにはさせていただきたい。
- 確認するにあたり、疑問に思ったこと（なぜ記載のような評価点になったのか、事業をやらなかったのか、やれなかったのかなど）は行政委員に説明を求めても良いのか。
→ ・多くの職員で手分けして記載したため、行政委員が全ての施策を把握しているわけではない。資料提供や情報提供も行うし、可能な限り答えるだろうが、全てがその場で回答・結論が出るものではないので持帰り、その後回答という事項も出てくるであろう。
・また、部会の場は町民委員が質問者、行政委員が回答者という形式になるべきことを望んでいるわけではない。行政委員も一委員である。
・成果や備考欄に記載していることは、町単独で行った事業もあれば、協働で行った事業様々である。専門性が高い項目もあり、職員が把握し切れていないこともあると思われる。

(2) 第 6 次斜里町総合計画の策定方針について～山崎先生の講演を聞いて～

- ・ 委員からの主な感想・意見

- 夢の順番付けや、総合計画はまちづくりのツールであることなど、説明が大変わかりやすく、内容を理解するできた。
- 指標化を入れることで、目標が明確になると感じた。芽室町のような総合計画の体系がわかりやすく感じた。指標を入れることができるかどうかは、策定作業時間との兼ね合いもあると思われる。
- 計画策定後のPDCAサイクルや検証作業の重要性を理解した。
- 協働や自治基本条例との総合計画の関係性が理解できた気がする。総合計画はまちづくりのツールであり、ルールであることを聞き、腑に落ちた。
- 芽室町の総合計画ハンドブックは大変わかりやすく、斜里でも作りたいと思うものであった。

・ 山崎先生からの意見・助言

- 町民目線での意見が出しやすいように議論を進めることが大切である。
- いろんな意見、求めるものが出てくると思うが、順位付けが大切になってくる。
- 個別の事業を網羅的に議論しようとする、かなりの時間がかかってしまう。初めは、夢の部分の議論することが大切で、その中で順位付けを行うと議論が進んでいく。
- どのレベルで議論するのも大切である。経験的には、中間的な階層の施策から議論を進めるのがよさそうである。斜里らしさを議論の中核に据えるのも重要である。
- 数値目標を入れると計画の進行管理・検証がしやすくなるので、時間がかかり大変な作業であるが、真剣に検討していただきたい。初めから芽室町のようなものをめざさなくても、項目を絞って部分的に数値目標を入れる方法や、拡大・現状維持・縮小といった方向性を示すだけの目標設定もある。活用できなければ意味はないので、無理のない範囲でなくてはならないが。
- 第5次の検証に関し、全ての項目のチェックは大変だろうから、重点的な項目を抽出して行う手法や、行政担当者に重点的な項目を指示してもらってもよいのではないか。
- 部長が委員や一般の町民を巻き込んで計画づくりを進めることが重要である。弟子屈町は高校生ワークショップなど様々な手法を行ってきた。
- 芽室町は確かに先進事例ではあるが、唯一のモデルではない。町の実情に合った計画が大事である。先進事例からはエッセンスを吸収するに留め、斜里町らしい計画づくりを目指して欲しい。
- 繰り返すが、計画はまちづくりのツール（道具）であり、活用できなければ意味はない。

・ 山崎先生との質疑

- 議論を進めるうえで、前計画の検証作業と新計画に関する議論とでは、どちらを先に進めるべきか。
 - 検証が先の方が良い。議論も進みやすく、施策への理解を深める機会になる。
- すべての施策・事業が総合計画に位置付けられるとのことだが、本当にカバーできるものなのか。
 - 総合計画の書き方でカバーできると思う。
- 町長のマニフェストが重点項目にしている自治体の例があったが、任期とリンクしているのか。
 - リンクしていない自治体が多い。
- 町長が計画期間途中で変わった場合、重要政策の入れ替えなどを行う自治体はあるのか。
 - 計画を変更修正することが重要であるので、そのような手続き・ルールを作っておくことが肝心といえるだろう。

※ 今後の進め方について、どのような総合計画を作りたいと考えるかについて、第5次計画の検証とあわせて、部会に諮って、次回継続して協議することとした。

(3) その他

- ・ 平成24年度事業の整理票は、各部会の次回開催時までに配布することを事務局より連絡した。
- ・ 町民アンケートについて、近日中にアンケートのたたき台を配布するので、部会内での協議することとした。また、調査の方法論についても意見を求めることとした。

5. 閉会

- ・ 22:00をもって閉会した。

第6次斜里町総合計画策定委員会 第2回部会長会議 出席者名簿

◇ 委員 ◇

役 職	氏 名	出 欠	備 考
委員長	三浦 勝利	○	
副委員長	門間 哲也	○	
みどり部会長	下山 誠	○	
しごと部会長	高橋 秀典	○	
まちなみ部会長	元木 誠二	○	
くらし部会長	戎居 桂三	○	
いきいき部会長	梅村真由美	○	
まなび部会長	近藤 将人	○	
ちょうみん部会長	武山 俊一	○	

◇ アドバイザー ◇

役 職	氏 名	出 欠	備 考
北海道大学公共政策大学院 副院長／教授	山崎 幹根	○	

◇ 事務局 ◇

役 職	氏 名	出 欠	備 考
総務部長	北 雅裕	○	
企画総務課長	渡辺 実	○	
企画係長	河井 謙	○	
企画係	竹川 彰哲	○	
企画係	塩 幸也	○	
企画係	玉井 佐耶加	○	

◇ オブザーバー ◇

役 職	氏 名	出 欠	備 考
職員策定委員会委員長	松岡 誠	○	

◇ 一般傍聴 ◇

所 属	氏 名		備 考
策定委員（みどり部会）	村上 ひろ美	○	
策定委員（まなび部会）	木村 憲	○	
一般		○	
一般		○	